

学科名	建築学科
課程	学士課程
授与している学位	学士（建築学）

1.ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	本学科は、自然環境や歴史・風土と共生する豊かな生活環境を社会に提供していく立場から、地域固有の多様な伝統と文化に根ざした広義の「建築デザイン」を実践する技術者を育成し、世界に誇れる建築文化を確立することをめざしている。「建築デザイン」とは芸術と工学を融合した総合的なデザインを意味する。そこには、地域を構成する「人」「建築」「都市」「自然」が有機的に関連しあいながら、年月とともに調和のとれた生活環境を形成していくための、意匠設計、修復・保存再生、まちづくり等の安全性と持続可能性を担保した多様な活動が含まれる。 具体的には次に挙げる学修目標に到達した学生に、以下の学位を授与する。 学士（建築学） 早稲田大学建築学科では、我が国の自然環境や歴史、風土とも共生し、世界に誇れる建築文化を確立するために、豊かな生活環境を築き社会に提供していく立場から、世界の多様な地域に固有の伝統と文化に根ざす、広義の「建築デザイン」を実践する技術者の育成を目指している。学部卒業時点では、専門家としての基本的な知識や技術、倫理観を培い、異分野の専門家と協働して自らのアイデアを社会に提案できる技術者の育成を目指す。
2.カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）	世界の多様な地域固有の伝統と文化に根した、意匠設計のみならず、建築学の両輪をなす芸術と工学とを融合した広義の建築デザインを学ぶ。 学部1～3年次では、建築史、建築計画、都市計画、建築構造、建築環境設備および建築生産といった建築学全般の広範な知識を身につけ、これらの知識を設計演習や設計製図などの実技系科目を通じて、より総合的な建築表現および創造的な建築を生み出す能力を培う。4年次では、卒業論文と卒業計画の両方を履修し、学士課程の学習・研究の成果を評価する。

学修成果1.	「早稲田建築」の伝統に学び、現代社会が建築・都市・環境に求めるものを知る
学修成果2.	地球的な視野と、地域に固有の歴史風土を理解する視点を、共に涵養する
学修成果3.	建築家および建築技術者の職能を理解し、社会に対する専門家としての倫理観を培う
学修成果4.	建築・都市のデザインおよび芸術性に関する幅広い知識を身につける
学修成果5.	進取の精神をもって、先進的な知識を積極的に吸収する力を培う
学修成果6.	関連する諸分野の知識を統合し、創造的な空間の提案をする能力を培う
学修成果7.	異分野の専門家と協働し、問題を実践的に解決する能力を培う
学修成果8.	建築に関する自らのアイデアを広く社会に提案する能力を鍛える

学科名	総合機械工学科
課程	学士課程
授与している学位	学士(工学)

1.ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)	機械工学を基軸とした学理とその応用によって、様々な機械を設計、生産するために必要な能力を身につけさせる。その為に、流体力学、材料力学、熱力学等をはじめとする機械工学の根幹をなす学理、専門知識を習得させるべく教育を行う。ついで学理を活用する実践力を各種の実験実習科目を通じて身につけさせるべく教育を行う。PBL(Project Based Learning)、Seminar、Engineering Practice等、主体性を要求するように設定した実践型の科目を通じて論理構成力、客観的表現力を習得させる。これらを総合し卒業論文とこれを執筆するための研究を通じて、問題を解決するための具体的な構想を考案し実施する能力を育てるべく指導を行う。学修成果の全てを満たすことにより学士(工学)を授与する。
2.カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)	1年次においては、機械工学の専門科目の理解に必要な、数学、物理、化学等の工学系基礎科目や外国語学の習得に加えて、一部に専門科目の導入となる概論や、必ずしも専門的知識を要しないが機械工学的な素養をはぐくむための体験的な実習講義であるPBL等の科目を実施する。これらの科目の設置により工学者として必要な基礎教育を実施するとともに専門科目の教育へ向けてスムーズな接続を図るようにする。2年次、3年次においては、機械工学の根幹を成す学理を習得させるための専門科目群を重点的に設置している。かつ講義科目で習う機械工学の学理を学生自ら実地に適用するための実験実習科目群を設置することで、学理の習熟、体得を促すための教育を実施する。また、実験実習科目群よりも相対的に主体性を重視した科目群である、Seminar、Engineering Practice を通じて、学理の適用にとどまらず課題設定および課題解決のための実践力を養うべく教育を実施する。4年次では卒業論文研究を通じて、自主的に課題設定し、課題解決のアプローチを考案し、実施し、学術論文の標準的なフォーマットに準じて報告可能な能力をつけさせるべく指導する。

学修成果1.	理工系基礎科目を履修し、数学、物理、化学等を中心に、機械工学の専門科目を学習するために必要な能力を有する。また理工系基礎実験科目を履修し、データ収集と整理、解析の基本的な能力と報告能力を有している。
学修成果2.	専門科目を履修し、機械工学の根幹を成す学理について講義科目で学ぶと同時に、ゼミ系科目、設計製図および専門実験実習系科目の履修を通じて学理を主体的、実践的に適用・応用することにより、機械工学に関連する産業界において基本となる実務遂行に必要な習熟レベルを有している。
学修成果3.	卒業論文の研究を通じて、機械工学の学理を用いて課題を見いだし解決にあたるための態度、能力をみにつける。具体的な到達度として、(1)公知化された従来の知見から必要な情報を収集することが出来、(2)これを整理して既に解明もしくは達成された事項と、未解明もしくは未達成である事項を区別出来、(3)学理に基づいた論理的アプローチにより解明もしくは達成を試みることが出来、(4)成果を学術論文としての基本的なフォーマットに準じて客観性のある文書にとりまとめることが出来、(5)指導教員および当学科の構成教員等に対して口頭で成果発表を実施することをもって学士(工学)を授与する。

学科名	経営システム工学科
課程	学士課程
授与している学位	学士(工学)

1.ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)	グローバル化の中、一層大規模複雑化している社会技術システムの構造や特性を理解し、数理・情報・システムなどのアプローチ技術を活用してその設計や評価を行うための知識を備え、さらに現実的な問題に関する設計や評価を行うことができる実践的な能力を身につけた者に対して学士(工学)の学位を授与する。
2.カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)	経営システム工学科では、社会における様々なシステムの企画、設計から活用、運用までの技術、それらへのアプローチ(基幹)技術として、数理・情報・システム理論などの技術、さらにシステム構成要素である人、もの、お金、情報などの取り扱いの諸技術を深く学ぶ。これらを効果的・効率的に学ぶために、次に示すように、教育内容、授業形態を工夫している。 ・ビジネスシステム、生産システム、流通システム、情報システムなどの各種マネジメントシステムの分析、設計、開発、および管理に必要な基礎・応用技術の学習機会の提供。 ・多数の実験・演習形式の体験型授業の設置。 ・3年生秋学期からの研究室配属、卒業研究の重視、大学院との一貫教育。 ・正解というものがないオープンエンドな課題についての演習、研究活動、企業や研究所などとの共同研究。 ・企業などの外部から著名な方を招いて講義を頂く招聘講師、特別講義、工場見学・実習、共同研究などを通じて社会や企業など現場との連携の強化。 ・海外インターンシップを始めとする国際的視野に立った研修・学習プログラム。 教育目標を達成するため、必要となる共通的な基礎をまず習得させ、次にそれに基づき選択した専門分野の知識や技術を習得させ、さらにそれらを活用した問題解決の能力を育成するというフローとなるように設計を行っている。具体的にはDP1およびDP2は共通的な基礎であり、A、B群の科目ならびにC群の必修科目がそれぞれ対応し1、2年次で習得させる。DP3はそれを踏まえた専門分野の知識や技術であり、3、4年次で習得させる。DP4はそれらを活用した問題解決の能力の育成に対応し、3年秋学期から4年にかけてのゼミ活動と4年次での卒業研究で育成する。さらに、DP5は、学部共通のリテラシ科目、学科の総論科目、外部講師の科目、3年秋学期から4年にかけてのゼミ活動と4年次での卒業研究で習得させる。DP6は、DP5と同様の科目に加えて、経営実践・海外プロジェクト、経営システム・国際プロジェクトなどのインターンを実体験できる科目によって、さらに深く学べるように工夫している。

学修成果1.	経営工学に関する基礎・応用技術
学修成果2.	統計技術, 数理技術, 情報技術, システム技術など机上で得た知識を応用できる能力
学修成果3.	研究室の専門分野に関するより専門的な知識
学修成果4.	経営システム工学演習, 卒業研究演習, 卒業論文で正解のないオープンエンドな課題に取り組むことで学ぶ問題発見能力, 問題解決能力
学修成果5.	経営工学に関する基礎・応用技術を実務に活用する能力
学修成果6.	学修成果1～5を国際社会で生かす能力

学科名	社会環境工学科
課程	学士課程
授与している学位	学士(工学)

1.ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)	社会環境工学は、人間が人間らしく生きるための環境を創造する役割を担っており、社会が抱える課題こそが社会環境工学が向かい合うべきものである。現在の社会が文化的な生活を維持し改善していこうとする中で、解決すべき問題が多岐にわたっていることにより、社会環境工学分野に求められる人材と職能も多様になっている。複雑化する課題を多角的に見つめ解決していく使命を果たすため、関連する知識を正しく身に付けていることはもちろん、様々な社会的要請に対して、自ら問題点を発見し、最適な方法・答えを提案できる術までを教育することになる。社会環境工学科では、社会環境工学に求められる使命にこたえられる、創造力、総合力、そして国際力を備えた指導的人材を育成するため、社会基盤部門、環境防災部門、および計画・マネジメント部門のそれぞれの専門家が結集し、社会環境工学の基礎教育を講義・実験・演習などの形で提供する。そして、最終学年では、教員の研究指導のもとで卒業研究・計画を行い、その成果を卒業論文としてまとめあげる。各部門において卒業論文の審査を行い、社会環境工学の基礎的な知識と応用力を身につけていると判断された場合に、学位に相当する能力があると認め、学士(工学)の学位を授与する。
2.カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)	社会環境工学科では、社会基盤整備のための基礎的な技術の継承に加え、新たな社会的要請にこたえるべくカリキュラムを準備している。まず、社会環境工学分野の技術者が持つべき素養の基礎である、基礎的数学能力、自然科学、人文・社会科学、および社会環境工学の根幹をなす基礎理論体系を1年時に学ぶ。その後、幅広く社会環境工学全般を学ぶことにより、多角的なものの見方、理論の深い理解ができる能力の育成、また、新たな価値意識を備えていく。2年・3年時には、知的総合力を持った技術者として、社会基盤の整備や維持管理、また地球環境との調和に対する技術的側面から貢献するための専門必修・選択科目が提供される。さらには、社会環境工学に係る国内外の様々な問題の解決に当たることができる技術者を養成するべく、自然・社会の諸現象を科学的に解明する能力、マネジメント能力あるいはプレゼンテーション能力を3年時の実験・演習科目、および4年時の卒業論文等を通して養うものとする。

学修成果1.	現象の根源的な構造を解明し理論化する数理能力を有し、複雑な要請や条件を「かたち」や制度にまとめあげる設計や計画能力の基礎を身につける。
学修成果2.	社会のあるべき姿の実現に向けた理論構築の基礎と実践が礎としてあり、さらにそれらを応用できる能力を身につける。
学修成果3.	自ら実験やフィールドワークを計画・遂行し、得られた結果を数理に基づき解析・分析する能力を有し、それを説明できるプレゼンテーション能力を身につける。
学修成果4.	主体的に問題を解決する能力と、分析力・思考力・推論力を活かした総合判断力を身に着け、それを多様な人々と協働して世界の様々な問題の解決に当たることができる。

学科名	環境資源工学科
課程	学士課程
授与している学位	学士(工学)

1.ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)	地球的視点、技術者倫理、コミュニケーション能力、国際性を身につけ、多様な価値観に基づき、リーダーとして環境と調和した資源開発、様々な地域および地球全体の環境問題の解決に貢献できる能力を習得する。カリキュラムに基づき学修を重ね、卒業論文をまとめ上げ、口頭発表審査を行い、各学修成果の習得度合い及び論文・発表の内容を評価し、学位を授与・卒業を認定する。
2.カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)	自然環境と調和した持続可能な地球資源システムを創造できる人材を育成する。自然環境を保全しながら合理的に資源を探索・開発し、効果的に資源を循環させるために必要な知識を、地球・物質・資源・開発、素材・循環、人間・環境の複合的な視点から系統的に学習可能とする。カリキュラムとして、学部1年次には数学・物理・化学および情報工学や理工学分野の基礎実験、そして外国語、一般教養科目を中心に基礎学力を養成し、2年次以降はより高度な自然科学・実験に取り組みつつ、学科の専門科目への取り組みを開始する。3年次にはさらに深化した専門科目を履修し、同時に学科の全研究指導分野の実験に取り組む。この課程の中で、各学修成果を習得し、最終的に4年次において卒業研究・論文を取りまとめる。

学修成果1.	理工系基礎科目である数学・物理・化学・地球科学・生物・基礎実験などに対して深く理解し、科学・技術に関する広い基礎的知識。これに加え、人文・社会科学系の知識を含む幅広い教養。
学修成果2.	数学・物理・化学・地球科学および情報工学・実験等に関するより高度な理工系基礎科目並びに環境・資源工学に関する専門基礎科目に対する理解。英語および初修外国語に関する読解や記述をする能力。
学修成果3.	環境・資源工学に関する専門科目に対する深い理解。
学修成果4.	ゼミ発表および卒業論文研究を通じた環境・資源工学に関する専門知識・研究手法に関する深い理解。